

授業協議会記録

1 研究の視点

モデル家族の住まいの問題解決に向けて、自分事として課題を解決させる活動は、生徒がエージェンシーを発揮したり、メタ認知を促したりするのに有効であったか。

2 自評

○エージェンシーについて

今年度は、住まいの安全性を題材とした授業の研究を行った。研究の中心には、生徒やその家族の日常的な行動や認識にどのように安全を組み込むかという点がある。生徒にとって、住まいというテーマが意識しにくいことを認識しており、それを変えるための方法を模索している。生徒が主体的に参加し、自らの行動や意識を変えることができるような授業作りを目指している。

○メタ認知について

現段階での生徒の安全意識の乏しさを理解し、それを変えるための手法を考える過程で、メタ認知の視点が非常に重要だと感じている。生徒が自分の行動や意識について自己反省できるような環境を作ることが、安全意識を高める鍵だと考えている。

○実践的アプローチについて

四つの異なる家の間取りを考え、それぞれの家における安全性を考慮するという方法は、非常に実践的で効果的だと感じている。それぞれの家の特性や住む人々の特性を考慮しながら、安全性を最大化する方法を模索することで、より現実的な解決策を導き出すことができると思う。

○今後の方向性について

今後は、高齢者や幼児の視点も取り入れた授業を行うことで、さらに幅広い安全性の観点から問題を考えることができると期待している。また、具体的な実践や調査を通じて、生徒の意識を更に高めることが目標である。

3 質疑応答

○本題材の計画とゴール設定について、どこまでの計画が立てられているか、どの程度、生徒が課題を理解しているか。

→テンプレート型のデジタルワークシートを用いて学習活動を行っていく予定である。テンプレートの配布はまだ行っていないが、次の時間には使用予定である。最初の見通しをもって活動を開始できるように、事前に配布すべきであった。本時の活動では、ゴールイメージを十分生徒に持たせることができなかったように思う。

○今回、四つのモデル家族と住まいを用いて、問題をグルーピングする活動を行ったがその意図は何か。

→四つのモデルを準備することで視点が増え、問題が焦点化しにくくなるという不安は持っていた。しかし、家族や住まいによって起こりうる問題は様々であるということは当然のことである。また、様々なケースにおいても、家庭内事故や防災といった安全生や動線などの快適性というのは共通する課題である。グルーピングを通じて、生徒自身が様々なケースを想定して問題を再確認することができると思った。問題のグルーピングをすることで、問題の性質や分類が明確になった。また、「分からない」という感覚が生まれた時、他者の意見や視点が求められる。この活動を通じて、メタ認知の育成につながると考えている。生徒にその目的が十分伝わっていなかったかもしれないが、グルーピングを通じて視点が増え、他者の意見や視点からの学びが効果的になると感じた。

○学習内容の活用と共同的な学びの意義についてどう考えているか。

→生徒たちは学習内容を活かして視点を持っている。グルーピングは大きな意味での共同的な学びとして捉えられ、自由度をもう少し大きくしてもよかった。

○シックハウスや室内の空気環境に関する議論は、今回は取り上げられていない。今後扱う予定はあるか。

→今後の学習で、住まいの危険を①家庭内事故、②災害、③その他と分けて扱っていく予定である。その他のところで、火災や防犯、シックハウスなどを取り入れていく予定である。

4 意見

提供した家庭内事故死亡事故の資料が有効であった。配布方法や提示の仕方に疑問や改善の提案がある。掲示物や資料として提示するなどして、生徒が自由に動き回って、情報や資料を活用していくような手法をとっても良かったのではないかな。また、四つのモデルを扱う4人班で活動を行っていたが、他の班とも自由に相談できる時間を設けると、同じモデルを扱う生徒同士で相談したり、意見を聞きやすい友達で相談したりとより、活発で深まりのある活動になったのではないかな。